



# 学校だより

末子配付

第5号ジャカルタ日本人学校  
令和3年(2021年)8月31日  
校長 緒方克行  
TEL: 021-745-4130

## 「生活で生きる力を育む」

教材を受け取りに来る子どもたちの顔を見て、2学期が始まったことを実感することができました。今学期のスタートがオンライン授業になってしまったことは残念ですが、昨日キッズノートで発信した通り、9月10日(金)よりシミュレーション登校を再開いたします。子どもたちの元気な声がJJSにもどってくることを楽しみにしています。

2年生のクラスを担当したときの話です。子どもたちが箱詰めのお菓子の写真を見て数えていました。

子ども「1, 2, 3, 4, 5, …、おお! 12個もある。

オレだったらこれが食べたいな。先生は？」

私「先生だったらこれを食べたいな。でも、今どうやって数えたの？」

子ども(指差しながら)「こうやって順番に端から数えた。」

私「さっき勉強した掛け算は使えないの？」

子ども(しばらくの沈黙後)「あっ!! そうか、三四、十二だ!!」

このとき学習したことを生活に生かすことの難しさを実感しました。



心理学の見地からも、学校知(授業で学んだ内容)を生活知(生活で生かせる知恵)に変換させることは難しいとされています。

例えば、

- ・理科で炎の学習をしたが、キャンプで火をつける時に薪の上から火のついたマッチをあてがう。
- ・社会科で環境問題を学習し節電の大切さを学習したが、部屋の電気はつけっぱなし。
- ・保健体育で規則正しい生活の大切さを学習したが、夜更かしをしてしまう。

などなどたくさんあります。もちろん学習したことがすぐに生活を変えることは難しいことであり、「わかってはいるのだけど変えられない」ということもあるでしょう。ただ、知識としてその意味を学んでいるのですから、少しずつでも生活知へ変換するために、学校知を生活知につなげる場面を子どもに提供することが大切です。このチャンスは生活の中にたくさん散りばめられています。

子どもにとっては「あっ、そうか(あの学びが使える!)」とひらめいた瞬間の喜びが、様々なやる気を引き起こします。そして、学習内容が記憶としてしっかり定着するのです。是非、ご家庭でも授業のことをたくさん話題に出していただき、生活知への変換を促すようにしてください。

文部科学省は「生きる力」を育むために、『『何ができるようになるか』を明確化する』と打ち出しています。家庭と学校とで協働で子どもたちを育てていきましょう。